

県北地域の戦災を知ってますか？

1945年(昭和20年)
太平洋戦争の終わりごろ

高萩市が受けた戦災

【艦砲射撃】

7月17日午後11時ごろ、高萩沖の軍艦から石海地区が砲撃を受けた。

【焼夷弾攻撃】

7月19日午後10時30分ごろ、米軍機が島名に焼夷弾を投下した。10数戸の家が燃えてなくなった。

同日午後11時ごろ、再び高萩の上空へ米軍機が戻ってきた。春日町、本町、大和町の一部に焼夷弾を投下した。町のほとんどが焼け、2人が亡くなった。

日立市が受けた戦災

【1トン爆弾攻撃】

6月10日午前9時まえ、100機を超える米軍機B29から1トン爆弾攻撃があった。508発(米軍記録806発)の爆弾が日立製作所日立工場(海岸工場)と工場周辺の相賀町などに投下され、多くの人が亡くなった。

【艦砲射撃】

7月17日深夜、日立工場、電線工場、多賀工場、日立鉱山の洗錬所に向けられた砲撃は、悪天候のため、砲弾の大部分が市街地で炸裂し、民家に多くの被害をもたらした。

【焼夷弾攻撃】

7月19日深夜、127機の米軍機B29から13,900発もの焼夷弾が投下された。町は、火の海に包まれ、旧日立市の6割以上が消失した。

北茨城市が受けた戦災

【爆弾投下】

4月12日午前11時58分、郡山方面を爆撃して帰還する1機が大津上空から3個の爆弾を投下した。爆死者は87人、焼死者9人、爆死傷者2百数十人。

参考資料「高萩市史」「日立市戦災史」「北茨城市戦争の遺構と平和を語り継ぐまちづくりへの提言資料」

大きな被害を受けたもの。高萩の被害については触れていませんでした。

これは、市内の子もたちに伝えていかなくてはならないの思いから、体験談を伝えるプログラムを考え、文集から話を抜粋した紙芝居を作成しました。当時、蓬萊会の会長であった花園文照(ふみてる)さん(下写真中央)ほか4人の協力により実現できたのです。



市内小学校で戦争体験を伝える花園さん



7/19焼夷弾攻撃の翌日に市川スタジオ前から南方面を撮影



<https://city.takahagi.ibaraki.lg.jp/page/page002017.html>

戦争体験を次世代に伝えていくために作成した「戦争のはなし」文集。本市にも戦争があったことを知る資料としても貴重なものであり、戦争記憶の風化を防ぐ一躍を担うものである。

市立図書館にて借りることができる。市HPからも閲覧可能。

戦災は高萩にもあった

戦後70年(平成27年)を迎えた節目の年、公民館事業の一環として戦争体験者の話を文集にしたいと、高齢者大学の卒業生で組織される蓬萊会(当時65歳〜93歳288人)に協力を求めると11人が原稿を寄せてくれました。

原稿を読み、ここ高萩にも艦砲射撃や焼夷弾攻撃などの戦災があったことを知り、衝撃を受けました。教科書で学んだ戦争は、東京大空襲や広島、長崎の原爆など



子どもたちに語り継ぐ 戦争のはなし



高萩の海岸にて

**忘れようと思っても
忘れられない記憶**

艦砲射撃の大きな音と振動で、家がつぶれてしまうのではないかと、「神様助けてください」と叫んだことを覚えています。

目の前を火の玉がうねりをあげて飛んでいく様子に生きた心地がしませんでした。



いしかわ よういち
石川 洋一さん(85歳)



たなや たみこ
棚谷 多美子さん(98歳)

お米の配給や医療の切符制、預金の封鎖などの制限された生活にも耐え、本当に大変な思いをしました。

**高萩のまちが焼かれる前の
街並みを覚えている**

駅前の本町は、ほとんど焼けてしまいました。焼夷弾で家に火が移り、必死で消しました。

へびやカエル、スズメなど口にできるものは、何でも食べました。今の子どもたちには、経験させたくありません。

**あの時代を思えば、
どんなことも乗り越えられる**

よく生き残ったと思います。爆弾の衝撃で棚の物が落ち、地震のようでしたし、シラミによる発しんチフスや戦地で兵隊が感染してきたマラリアなど伝染病も多かったです。



いしひらみつ
石 平光さん(82歳)